

# あかりだより

No.27

発行：2017年8月

発行者：社会福祉法人 あかりの家

題字：米田 洸弥

## 30周年記念事業 グループホーム 友愛の家 完成



来春、この地に  
自閉症者専用グループホームが  
オープンします！



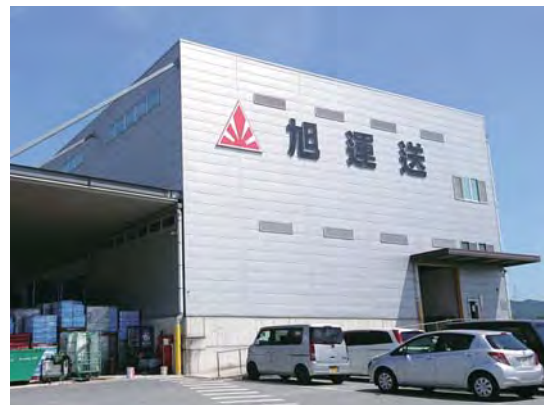
昨年のおかりだより表紙写真です

# あかりの家 ○○始めました！

## その① 新作業 アサヒ班始動！！

自閉症者の真面目、正確、手先が器用…といった能力や可能性を知った株式会社旭運送姫路支店様から“戦力”としてオファーをいただきました。

お菓子の箱折りや、試供品のセット作りなど、内職の皆さんと同じ、発送準備の仕事をさせていただいています。



現在5名の利用者が、あかりの家から5.5km先まで職員と一緒に車で通勤、作業場を提供していただいております。

ライン作業の一部を利用者たちが担うことを目標にしています。

## その② 管理栄養士始動！！～栄養ケアマネジメント始めました～

食事面から利用者のQOL(生活の質)の向上を目指すため、あかりの家の管理栄養士が利用者ひとり一人の栄養状態を把握し、計画を立て、支援部、医務、厨房と連携して栄養ケアマネジメントに取り組んでいます。

利用者の高齢化も進み、咀嚼嚥下の問題が切っても切れない課題となりつつあります。刻み食や流動食にすぐに頼らず、できるだけ“普通の食事”ができるよう“食事”に対する連携を密に取りながら、利用者の豊かな生活を応援します。



食事中の利用者さんの様子をモニタリングして、管理栄養士が2、3か月に一度評価し、計画の変更・継続を判断しています。

### 栄養の管理だけではない ケアマネジメント



焼魚のパサパサとした食感が苦手な食べづらさがあったAさん。表面にとろみを塗ることで食べやすくなりました！



背が高いBさん。足の長い椅子に変えることで食べる姿勢が良くなりました。

# 通勤いろいろ

## ワークホーム高砂

今回は、ワークホーム高砂で働く皆さんの、通勤風景を紹介します。

45名の利用者さんの内、31名が自力通勤。

内、徒歩通勤が9名、自転車通勤は14名、山陽電車やJRの利用は8名です。

何よりも〈安全に〉そして〈自分の力で〉〈継続する〉ことは全員に共通するテーマです。

### 電車で～電車が止まった、どうしよう?!～

突然のダイヤの乱れ。

流れ続ける案内アナウンスや数分ごとに変わる電光掲示板は、発車時間やホームの変更を知らせてくれます。

しかし、利用者が理解するには難しいのが現実です。

10年ほど前の話です。乱れたダイヤでやっと来た新快速に乗ってしまって、新快速は降りるはずのJR曾根駅に止まらず、乗越してしまうことがありました。また、満員電車に乗り込めたものの、その次の駅でどんどん奥に押し込まれて、曾根駅で降りられなくなってしまったこともあったようです。

今はワークホーム高砂に、携帯電話で「遅れています。いま、駅で待っています」と、しっかり伝えてきてくれます。数多い情報と人混みの中で、自分の力でできる方法を、自分なりに考えて行動がとれるようになっています。



### 徒歩で～グループホームから5Kmを～



グループホーム オリーブの家からワークホーム高砂までは約5Km。歩くことが大好きな?おふたりは徒歩通勤です。入居当初は、他の利用者さんと一緒に車の送迎でしたが、運動不足解消とストレス発散を兼ねて徒歩通勤に切り替えました。

しかし、交通の大動脈「明姫幹線」は凄い交通量。それに、途中でトイレに行きたくなったら…と心配は尽きません。ある日、こっそりと通勤の様子を見てビックリ。なんとコンビニに入ってちゃんとトイレへ行くではありませんか。「トイレをお借りします」とは言わなかったようですが、少しずつ社会のルールを身につけているようで嬉しい限りです。

お守り代わりのGPSをバックに入れ、今日も元気に通勤しています。

### 自転車で～下り坂は降りて押して歩く～

あかりの家から自転車で通っているしさんは、寄り道が大好きで、スピードを出し過ぎてしまいます。ですから、通勤ルートをしっかり守ること、スピードメーターを自転車に搭載して安全な速度を守ることを、とても大切なルールにしています。

通勤途中の長く急な坂は、スピードの出しすぎと通行人への迷惑を避けるため、“自転車から降りて押して歩く”約束をしています。誰でも乗りたくなる下り坂「今日、坂で乗ってたで。顔を見たらすぐ降りて、通り過ぎたらまた乗ってたで」と、引継ぎ時、あかりの家の園長から報告があったりするようです。あかりの家と連絡を取りあいながら、安全な通勤のための工夫に、頭を悩ませる日々です。



# 30周年記念事業 グループホーム 友愛の家が開設!!

今年4月、3つ目のグループホーム 友愛の家が、30周年記念事業の一環として開設されました。定員は6名で、あかりの家から3名、6月にはワークホーム高砂から1名、現在4名の利用者が入居されています。

“今よりも少しでもいい生活を”と作られたグループホームで、障害者支援施設あかりの家の職員が、全面バックアップしています。法人の役割である“自閉症の人たちの可能性を追求する”ことをさらに展開し、深めていきます。



4月には開設記念パーティが友愛の家で開催されました。手作りハンバーグの洋食弁当に舌鼓をうったあと、利用者全員から抱負があったのですが…

印象的なのは、Aさんとお母さんが一緒になって「素敵なお大人になりたいです!」の言葉。この言葉は“友愛の家のスローガン”になっていきそうです。



洗濯や洗濯物干しなども自分たちで行います。最初は大丈夫かと不安もありましたが、支援員に助けられながらもがんばっています。ある日の夕食で、ホットプレートでホルモンうどんを焼いていたときのことです。鍋にかけていたスープが沸騰して「ゴトゴト」と音を立てました。Aさんが「火!!」と言って、走っていきました。こんなことは、施設ではなかったことです。

## 自分好みのベッドに!

グループホーム 希望山荘日笠

ワークホームで働いているKさん。工賃を溜めて、居室の家具をそろえています。テレビ、テレビ台、座椅子に引き続き、今回はベッドを購入しました。

いくつもの商品を見てまわり、ひととおり見終わった後、ピンとくるものがあったようで「これ!」と即決しました。マットレスはかなり高級なものを選び「とても寝心地がいい!」ようです。

次に一面ガラス張りのおしゃれなタンスも購入しました。プラスチックケースのタンスから卒業です!



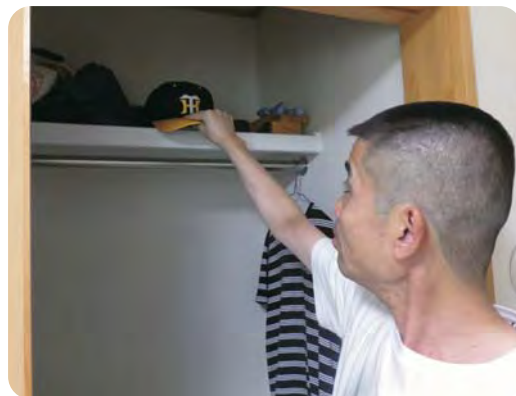
## 念願の甲子園へ

グループホーム オリーブの家

グループホームの生活に段々慣れてきたAさんは、休日の余暇を楽しみたいと行動援護サービスを利用するようになりました。

「甲子園に行きたい」と日頃から思っていたようで、ヘルパーさんと一緒に、念願の甲子園に行くことができました。

御馳走も食べて、帰ってきたAさんは、とても満足されたようで、嬉しそうな顔をしていました。甲子園で買った新しい阪神タイガースの帽子を毎日被っています。



# 支援者の輪をひろげています

## 児童デイサービスあかりの家

幼稚園、保育園の先生方に“ちょっと気になる子の理解と具体的な対応”のお話をさせていただいています。

障害の有無にかかわらず、分かってもらえずに困っている子がいて、それを分かってあげられなくて悩んでいる先生方がおられます。そんな先生方を「少しでもお手伝いできたらいいなあ」と思っています。

他にも“自閉症・行動障害の理解や対応について”のお話を依頼されることがあります。たくさんの方が感心を持たれているということと同時に、困っておられる方が多いということを感じます。

少しでも助けになって、支援者の輪が広がってほしいと考えています。



ひとりひとりが  
大人になったときに困らないように  
自分の課題に向き合っています  
泣きたくなるような難しいこと  
簡単にできなくて  
苦勞の先にクリアできること  
がほとんどです  
それでも、みんな頑張ってます



## 神戸製鋼 高砂製作所さん ありがとうございました！

株式会社神戸製鋼所 高砂製作所様から、たくさんのおもちゃや勉強教材をいただきました。神戸製鋼さんは、こどもたちの豊かな活動を応援してくださっているのが、よく伝わってきました。

こどもたちも喜んで、遊びに勉強に使わせていただいております。

ほんとうに、ありがとうございました。



# 記念式典

# あかりの家開設 30 周年記念式典・祝賀会

2016年11月4日 高砂市 鹿島殿

# 祝賀会



当日、職員全員、利用者もスーツやワンピースに身を包み、会場に向かいました。ピシッとした服を着ると自然と気持ちも引き締まります。

慣れない場所に慣れない服、おまけに厳粛な空間。約1時間半の静かな式典で、園長はじめ、支援員、保護者もとてもうれしく思いました。

来賓の皆様にはお祝いの言葉をいただき、また、これまで、あかりの家の運営に尽力、協力して下さった方々への感謝状の贈呈も行われました。



祝賀会では、これまでのあかりの家の歴史を振り返るDVDを見ながら、ワイワイとおいしい食事を頂きました。利用者の方々もきっと若かったころの自分を思い出しておられたのではないのでしょうか…。あのころは、あだだったな、こうだったな、こんなこともあったな、と皆それぞれ昔話に花が咲きました。



こころ暖まる  
ご祝辞をいただきました

永年に渡る支援に感謝して  
感謝状を贈らせていただきました



あいの家 西尾 淳 理事長  
あいの家 三原 憲二 施設長  
ワークホーム高砂 齋藤 克己 施設長

高砂市 登 幸人 市長  
兵庫県健康福祉部 関 孝和 障害福祉局長

あかりの家後援会 柿木 國夫 会長  
あかりの家後援会 本庄 裕子 元役員

あかりの家後援会 柿木 國夫 会長  
あかりの家保護者会 久保田 忠幸 会長  
あかりの家 坊垣 勝彦 副施設長

あいの家後援会 柿木 國夫 会長  
あかりの家保護者会 久保田 忠幸 会長  
あかりの家 坊垣 勝彦 副施設長

感謝状贈呈 (祝賀会)  
あかりの家利用者 正木 勝也 氏  
30周年記念Tシャツイラスト提供  
あかりの家 亀山 隆幸 支援部長

兵庫県自閉症協会 岩本 四十二 会長  
全日本自閉症支援者協会 松上 利男 会長

高砂を明るくする会 高橋 厚晴 氏  
アートクラブ 安部 武 講師  
秋桜会 (あかり喫茶) 歌野 美津恵 氏

華道クラブ 松尾 豊華 講師  
あかりの家利用者 正木 勝也 氏  
30周年記念Tシャツイラスト提供  
あかりの家 亀山 隆幸 支援部長

本当に沢山の方に支援していただいた30年だったのだと実感いたしました。深く感謝申し上げます。これからも40年、50年…とお祝いできるような、頑張りたいと思います。

## ご来賓名簿 (敬称略)

- 登 幸人 高砂市長
- 砂川 辰義 高砂市議会 議長
- 西本 好道 北脇自治会長
- 田井 真一 加古川市福祉部長
- 井澤 尚昭 稲美町健康福祉部長
- 福田 宜克 播磨町 理事
- 関 孝和 兵庫県健康福祉部障害福祉局長
- 岩本四十二 兵庫県自閉症協会 会長
- 松上 利男 全日本自閉症支援者協会 会長
- 五十嵐 康郎 全日本自閉症支援者協会 副会長
- 石井 啓 全日本自閉症支援者協会 副会長

- 蓬萊 和裕 兵庫県知的障害者施設協会 会長
- 河村有紀彦 東はりま特別支援学校 教頭
- 垂井 健一 いなみ野特別支援学校 教頭
- 日岡 孝夫 あすなろ学園 施設長
- 高橋 厚晴 もちつきボランティア 高砂を明るくする会
- 松尾 豊華 華道クラブボランティア 講師
- 安部 武 アートクラブボランティア 講師
- 歌野美津恵 あかり喫茶ボランティア 秋桜会
- 柿木 國夫 社会福祉法人あかりの家 後援会長
- 本庄 裕子 社会福祉法人あかりの家 元後援会役員

## 来賓祝辞

- 登 幸人 様 高砂市長
- 関 孝和 様 兵庫県健康福祉部障害福祉局長
- 岩本 四十二 様 兵庫県自閉症協会 会長
- 松上 利男 様 全日本自閉症支援者協会 会長

## ゲストスピーチ (祝賀会)

- 歌野美津恵 様 あかり喫茶ボランティア 秋桜会
- 本庄 裕子 様 社会福祉法人あかりの家 元後援会役員
- 松尾 豊華 様 華道クラブボランティア 講師

## 感謝状贈呈

- <長年の支援に感謝して一式典>
- 柿木 國夫 様 社会福祉法人あかりの家 後援会長
- 本庄 裕子 様 社会福祉法人あかりの家 元後援会役員
- 今津 房子 様 社会福祉法人あかりの家 理事
- 高砂を明るくする会 もちつきボランティア
- 松尾 豊華 様 華道クラブボランティア 講師
- 安部 武 様 アートクラブボランティア 講師
- 秋 桜 会 様 あかり喫茶ボランティア
- 永江 きよみ 様 音楽クラブボランティア 講師
- <Tシャツイラスト提供に感謝して一祝賀会>
- 正木 勝也 様 障害者支援施設あかりの家 利用者

## 祝電

- 渡海 紀三朗 様 元文部科学大臣 衆議院議員
- 山本 敏信 様 兵庫県議会議員
- 日野 滋子 様 神戸市自閉症協会 会長
- 光井 早苗 様 高砂市手をつなぐ育成会 会長

**お祝い**  
社会福祉法人あかりの家創立三十周年、おめでとうございます。これまで自閉症の人たちに寄添い支援にご尽力されてきたことに心より敬意を表しますとともに、これからも自閉症の人たちが豊かな生活を送れることを願って、あかりの家のますますの発展に期待しています。  
神戸市自閉症協会 会長 日野 滋子

# あかりの家開設 30 周年記念講演会

2016年12月17日 高砂市文化センター



## 基調講演： 僕が自閉語を学ぶわけ～エピソードで語る教師力の極意～

講師：ノートルダム清心女子大学 青山 新吾 先生



講師のノートルダム清心女子大学 青山新吾先生は、著書や論文であかりの家のキーワードをしばしば取上げていただいています。

学校や保育園の先生、施設関係者、保護者の皆さん約 200 人を前に、ご自身の障害児教育の経験を通じたお話を、やさしく丁寧に披露していただきました。

勤務されていた小学校の給食試食会に、支援の必要な幼稚園児（自閉症）が参加した際、体に触れて力を抜かせるなどした支援体験について語っていただきました。

さらに、「自閉症の人とコミュニケーションを取る努力は、彼らとしっかり向き合おうとする努力の過程。どうすればよいか思考停止せず考え続けることが重要」と話されました。

### <アンケート感想より>

- 『人間関係を紡ぐ』などの言葉の選び方は、思考停止しないために重要なことと再認識しました。
- 『動きの質の調整』が勉強になりました。
- 表出している現象（表現）をそのまま受け取るのではなく、行動の裏にある本質（主訴・本音）は何だろうと考える子供との付き合い方を考えさせられた。

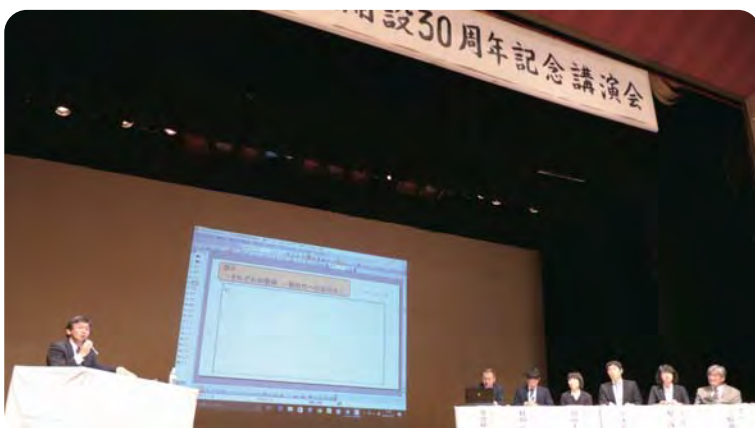
## 鼎談 ～ミニ事例発表～

基調講演のあと、青山新吾先生と三原施設長とあかりの家の支援員での、鼎談という形のミニ事例発表でした。

これまであかりの家で積み上げてきた、実践の中から得たエッセンス集である“あかりの家自閉症療育のキーワード集”から、自閉症支援のいくつかの大切な切り口をピックアップして発表し、先生からコメントをいただきました。発表したキーワードは、次ページに掲載しています。

### <アンケート感想より>

- 利用者ひとり一人の思いを受け止めて寄り添った支援の大切さ、時間をかけて一緒に過ごして向き合っていく、人間として対等に向き合っている関係性が伝わってきました。
- 個々の職員の実践をお聞きして、細やかな目配りに感心しました。見過ごしてもいいような場面を見過ごさず、利用者さんと心で対話する力量を感じました。



## あかりの家 自閉症療育のキーワード集(14) 「30周年記念講演会」発題キーワード

<実践の中で得たエッセンスをことば>にし始めて15年になります。以下、『30周年記念講演会』(’16.12)で発題されたキーワードです。

### 226 「作業を嫌がる自閉症の人に作業をさせては人権侵害」

2004年、出張先で知人がこぼした。「東京では、作業を嫌がる自閉症の人に作業させようとする人権問題になるんです」と。自閉症の人の名誉にかけてもきちん議論しておかなければならないと、新幹線での帰路つらつら考えた。

まず、どのレベルでの人権論議か。日中ゴロゴロすることの怖さを知った上で、の発言なのかどうか。自閉症の人にとっての作業の魅力・張り合いのある日中活動の大切さを知っているのかどうか。行動上の問題を上手くコントロールしてあげると自閉症の人は表面に見える以上に「できる」ことを知っているのかどうか。ゴロゴロは本当にしたくてしているのだろうか。つまり、入り口レベルで作業から疎外しては、人権を守るよりは非人権的なことになる。守られるより孤立化を強いられる。

そしてもう一つは問題のすり替え。授業中、小学生が「オレ面白くないから帰るワ」と言った時、先生は「そうだね」とは決して言わない。選択の自由や人権の問題としてではなく、授業の魅力や指導力・教育力の問題として、先生は考えるはずだ。

似たような話が、県社協の就職セミナーで、あかりの家の紹介コーナーを訪ねた学生の話がある。あかりの家では重度の人たちも全員働いていると説明すると「そうなんですか、あかりの家では。私が実習に行った施設では自閉症の人はゴロゴロしていました。」(’07 三原)

### 163 これまでの関係があれば成功できる！

「死ぬかもしれない手術なんか、Hがいなかったら受けようと思わない」と手術の決意をされたHさんのお母さん。以前は、年に1〜2回、1週間ほどの帰省をしていたが、お母さんの体調の関係で帰省が出来なくなっていた。そこに手術の話が持ち上がった。

そのお母さんに、入院前の面会を提案した。しかし、お母さんは入院前の面会には消極的であった。

これまで面会後は帰省していた。しかし今回は入院前の面会だから帰省できない。そうであるなら面会は避けよう、ということであった。

しかし、手術前に何とか面会を実現させてあげたかった。その面会を成功させると、手術以降の帰省なしの面会にも、お母さんは不安なく来られるようになると思った。

成功できたと思った。新任で担当した2年半前、イライラ動き回り、甲高い声でしゃべりまくっていた。食事では「盗食」が頻繁にあって、支援員はHさんの手を持ち、体でガードして「盗食」を防いでいた。それでも隙を狙われるような状態であった。

「一緒にいてゆったりと過ごせるような関係づくりを、ただただ一生懸命した。大好きなコーヒーへの取り組みもその一つである。Hさんは、コーヒーを飲むと興奮しやすく早口で多弁になる。睡眠にも影響する。その大好きな？コーヒーを何とか楽しむものにした」と考えた。そして、公園でゆっくりと飲むところから喫茶店に行くところまで、一緒に練習した。そして、今では落ち着いた話を聞いてもらい、約束も守ってもらえるようになった。だから、面会後の帰省がないということも、しっかり話し込めば、思いは伝わると考えた。

そして、お母さんを迎える当日朝、静かな居室で、外食でのふるまい方や家に帰らないことなど、しっかりゆとり話をした。そして、1年ぶりにお母さんと姉さんを迎え、私を含め4人で外食に出かけた。

レストランではお母さんの横に座った。そしてゆったりと自分で食べている。コーヒーも一口飲んで置いておく。「(一気飲みでなく)ゆっくり飲むのを初めて見た」と姉さんが驚いた。「良かったね」と話しかけると、ニコッと満足した顔を返す。

そして、お母さんが「おあちゃん頑張って手術するからな」と話すと「うんうん」と顔を見ながら真剣な顔で頷いた。その時、足の貧乏ゆすり止まり、曲った姿勢も伸びた。別れ際、どこで寝るのか聞くと「あかりで寝ます」と落ち着いた口調で答えた。

退院後、定期的な面会も始まった。「帰省のない面会」の成功が、お母さんの気持ちを前向きにさせた。(’12 原)

### 新3 それぞれの整体 一個別性への気付き

あかりの家では、全体の先生に週1回来て頂いている。居室に診察ベッドを置いて、支援員付き添いの下、15分程度の施術だ。

当然、ベッドではじっとしてはなくてはならない。体を先生に任せられるリラックス状態も求められる。

ただ、付き添う支援員により利用者の状態に違いが出る。その正体のベースの一つは、普通の付き合いの質で培われる「安心感」。もう一つは「個別性」への気付きである。

①Zさんは、窓から見える景色が刺激となり、起き上がろうとしてしまう。カー

テンを開めることでゆったりできる。

②Nさんは、前かがみの姿勢になっている為、背中がアーチ状に湾曲して、うつ伏せが難しい。そこで、お腹にクッションを挟む。すると身体的な負担が軽減され、随分ゆったり寝転べて体を任せられる。

③Sさんは、足周りに触れてマッサージされることを苦手になっている。1回1回細かくカウントしながら、小刻みに部位を変えることでたくさん終わりを作る。そうすることで、見通しが出来やすく、一定時間体を任せることができる。

④Bさんは、全体の後の予定を伝えて、整体後の見通しがつくことで、不安や焦りからくるおしゃべりをせずに済み、ゆったり集中出来る。

⑤Cさんは、全体の先生と談笑するなどその場が明るい雰囲気になることで安心できる。

⑥Dさんは、雑音のないピリッとした静かな環境の方が集中できて安心出来る。

⑦Oさんは、全体の部屋までゆったり落ちて歩いて行くことで、そのまま「ゆったり」を維持したまま整体が出来る。

⑧Mさんは、先生と挨拶することで、「整体の時間」と行動の切り替えが付きやすくなる。(’15 岸本)

### 28 「手を持つといて、手を持つといて」 —暴れなくてもいいように自分で応援を求める—

作業所でうまくいかず、定期的な短期入所利用が始まったLさん。

食事場面で特に問題が出て、食べ物を投げ、食器をひっくり返す。最初は「Lさん、投げたひっくり返したりしないでいいように、川崎さんが食べさせてあげるね」と話し、手を膝に置いてもらって、直接食べさせてあげた。「Lさん、魚だよ」「次はご飯ね」と伝えながら口へと運ぶ。重ねるうちに、少しずつLさんの身体や表情から緊張が和らいでいった。

「美味しいね」「良かったね」思わす。Lさんの表情からそんな言葉掛けができるようになった頃、食器をひっくり返さずに食べることができるよう、手を添えつつ、ゆっくり食べる応援をした。当初、手を添えられることを強く嫌がっていたが、Lさんの呼吸に合わせて添える手の力加減を判断しながらすすめていくなかで、それも出来るようになっていった。少しずつ手を添えなくてもよくなり、やがてわたしはLさんの隣りに座って見守るまでとなった。

そんなある日、苦手な野菜を目の前にした時のこと「手を持つといて、手を持つといて」と突然要求してきた。自分だけではうまくコントロールできない動きや感情を、わたしに応援を求めてきたのだ。「はい。持っていてあげるよ。Lさん、大丈夫だよ」と手を持った。Lさんの呼吸が静かになる。

わたしは、自分が必要とされたことが嬉しくてすぐ園長へ報告に行った。

(’03 川崎)

### 87 関係づくりことば

Bさんはお茶やお汁を飲む際、わざと服にお茶をこぼすことがある。6年前担当になった時「お茶をこぼしてはダメ」と徹底して言い続けた。しかし、関係もできていない中で単純な禁止ことばは、拒否感を持たせるだけで、上手く伝わっている感触はなかった。

Bさんは色々な言葉を知っている。そこで「ダメ」を「お茶をこぼさないように気をつけてね」と変えてみた。そして、ちゃんと飲めた時には、ジェスチャーも加えながら二人で「セーフ!」と、Bさんが繰り返したくなるような関わりに変えた。そのうち「今日もセーフだね」が、二人の共通言語になった。ちゃんと飲めた時には、自ら、小さい声で「セーフ」と言ってくれるようになった。お茶こぼしもかなり減った。

そして今年度に入って、幾分しゃれた感じの「マナー」という言葉に変えた。最初に使った時、彼はニヤニヤと笑った。この言葉も耳ざわりの良い言葉だったのだろう。今では、色々な場面で使える言葉になってきた。

(’12 村田)

### 243 あかりでは服破りをしない —存在感・しなくてもすむ—

A施設でのショート利用時には服破りが常態化しているB君、あかりの家のショート利用時には大きな問題がない。同じくショート利用のCさん、生活ホーム利用時には色々な問題行動が出るし、行くことを拒否する。しかし、あかりの家に来ることは嫌がらない。あかりの家では目立った問題もほとんど見せない。共に、療育的配慮は特にしていない。こういった事例話は少なくない。何故だろうか?

思い浮かぶのは、「さあ、ここがショートの人たちのお部屋ですよ」と優しく迎え入れられながらも、ある空間や関係にボツンと投げ込まれて、何をしてよいかわからない状況だ。

構造化されていない人や空間やスケジュールなどが想定される。目や耳に勝手に入ってくる周りからの刺激もあるだろう。仲間や職員からの無配慮で「親切」な対人的な混乱も考えられる。

そしてもう一つはSVの言う「存在感」。あかりの家では「ボツンと投げ込まれては」ではなく、「しっかり受け取られて」ショート利用が始まる。受け取った人が別の人が変わっても、空間が変わっても、B君にもCさんにも、あかりの家の職員が「存在」が在り続けている。

これに、SVからの追加コメント。「言語コミュニケーションの発達しない人ほど、相手の意図を読み取る非言語コミュニケーションがシャープになる」と。

あかりの家の職員が何も言わなくても、「ここでは、服は破らなくていいんだよ」と、振舞い方が示される。だから、「服破りをしなくてすむ」「あかりの家の人が家で、嫌ではない」という解釈につながる。

(’12 三原)



# 私はやっぱりここでくらしたい！ 地域支援センター あいあむ

## ～後見人制度を使ってみんなで支えるくらし～

一緒に暮らしていたお母さんが、病気で急に亡くなってしまいました。A男さんは、これからのくらしが不安でいっぱいになりました。

お母さんがいなくなっ  
てさびしいな...。  
難しい事を聞かれても  
一人だと分からない  
困るなあ。

1 A男さん 52歳 男性 療育手帳 B1

これからもお母さんの供養をしてあげたい

お金のことが心配。  
難しい事は  
一人で決められない...  
みんなで  
応援しますよ！

2 A男さんと支援者が集まり、  
どんな暮らしをしたいのかを確認しました。

そこで今回は、福祉の専門家である「権利擁護センターばあとなあ兵庫」に相談しました。

3 誰が後見人さんにな  
ってくれるの？  
女の人の方が  
話しやすくていいな。

A男さんの  
ご希望を聞いて、  
一緒に探しますよ。

ばあとなあ兵庫 東さん

4 ばあとなあ兵庫さんと一緒に手続きを進め  
A男さんの支援の輪に、後見人（保佐人）さん  
が加わりました！

よかった！

A男さんの  
ご希望を伺いながら  
金銭管理を中心に  
生活のお手伝いを  
しています。

後見人（保佐人）小南さん

5 お金や書類のことで分からない時には、小南さんに聞いています。  
お金の管理を手伝ってもらえて安心です。  
不安なこともあるけど、また、会議でみんなに聞いてもらいます。  
ヘルパーさんにも手伝ってもらいながら、がんばります！！

## 助け合いのしるし ヘルプマーク の普及啓発に取り組んでいます



### ヘルプマークとは？

周囲からの配慮を必要としている方々をみんなで助け合う社会を実現するためのマークです。つけている方を見かけたら、声をかけるなど思いやりのある行動をお願いいたします。

### どこでもらえるの？

高砂市役所障がい・地域福祉課  
住所：高砂市荒井町千鳥 1-1-1  
電話：079-422-2101

※高砂市民に限る

ヘルプマーク普及啓発活動は高砂市と自立支援協議会が共同で推進しています。



※高砂市障がい者自立支援協議会は高砂市よりあかりの家が事務局委託を受けて運営しています。

# 中学生の事例～相談をとおして～

## ひょうご発達障害者支援センター クローバー

発達障害もしくは発達障害の疑いがある人の相談が年間 約 1,500 件寄せられます。相談は年齢を問わず受けていますが、中学生、高校生からの相談も多々あります。その相談は、不登校や家族との不和、学習不振など多岐にわたります。ここでは、ひとりの中学生の登校渋りが見られる相談事例について、その対応を紹介します。

【約3年前の相談で、対応内容を基に周辺事情など一部変えて掲載しています】

### <生育歴>

乳幼児期：在胎 37 週 3568 グラムで出生  
 首すわり 3 か月、寝返り 5 か月 一人座り 10 か月  
 ハイハイ 10 か月、一人歩き 1 歳 初語 1 歳 指さしなし  
 健診時指摘なし  
 保育園：たくさんの人が走ったりするとその中に入るのを嫌がった。  
 小学校：小さいころから、いろいろ習い事に行かせたが、全て行くのが嫌になる。保護者が育てにくさに気づき、何度も相談に行くが「大丈夫」と言われたり「診断は出せない」と言われ続けてきた。最終的にスクールカウンセラーの紹介で訪れた病院で広汎性発達障害の診断を受けた。

言われたら嫌になることもあるよね。でも、そんなことを言われなくてプールができたらどうだろうか？>と本児と一緒にのりこえ方を相談していった。結果、本児の取組めそうなところとして、プールに参加すること。支援者ができそうなこととして、これ以上は泳げないというところからは立ち止まって（＝無理に息継ぎをしなくてよい）も良いようにと学校と交渉してみることを伝えた。

学校へは、状況を伝え、上記の内容を認めてもらえるように依頼をした。その上で、本児には誰かに言われたことを誤って捉える可能性があること、そのときサインを出せずに、苦手意識を持った結果、学校へ行くことをしぶる可能性があることを伝えた。今後こういった事柄を増やさないために、できるだけ（その場での指導が望ましいが、年齢的に難しいことを踏まえ）その日中に解決できるように、質問を受付けて、解説をしてほしいこと、口頭でなくてもノートでもよいのでと依頼した。

### <相談・対応経過>

中学1年生の3学期に面談で紹介されたと来所。通常の学級に在籍している。

主訴は、学校に行きたくないことが多い、勉強がわからないことが多いが説明を聞く気がないなどであった。

家の中では、怒りっぽかったり、片付けができなかったりということが保護者からは言われるが、学校ではそのような指摘はない。学業成績は中の下に位置している。友達関係も維持でき、メールを使ったコミュニケーションも大きなトラブルになることはない。ただし、担任に対して「説明がわからない」という訴えが多い。例えば「英語のプリント提出」と言うと、後で「2枚あるけど2枚とも出すんですか？」と職員室へ確認にくることもあった。家庭でも同様で、後で母親に理由やいきさつを尋ねるといことが見られる。

相談時困っていることを尋ねると「将来のこと」。きちんと大人になっていけるか？という（保護者の心配と重なるような）内容。今回の相談に至った保護者の心配事とは少し異なるものの、本児にとって困っていることの認識はあることがわかる。

気持ちの理解を促すシートを利用していくと“プールのある学校”が最も嫌なことに記入される。詳細を尋ねると、プールは苦手だったが、自分が一生懸命に泳いでいるときに「溺れている」と言われたことで、嫌になってしまったのだと話すことができた。

<苦手なものに挑戦しているときに、溺れているなんて

### <結果>

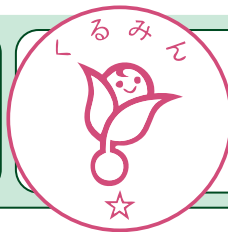
本児は、約束どおり、プールには苦手意識を持ちながらも参加した。また、授業ではプール内で立ち止まって後は歩くことを許可してもらった。そして、困ったこと、わからないことについては、担任が生活ノートを利用してやり取りを丁寧にしてくれるようになった。宿題は出せないこともあったが「このノートだけは何時間もかけて必死に書いています」と保護者から報告があった。最終的に、この年度のプールの授業は参加することができ、登校しぶりについてもゼロにはならないものの、程度が収まっていった。次年度のプールも参加でき、希望して高等学校へ進学していった。その後も、困ったことがあれば、自分から相談を求めるようになっていった。

今回は、本児も努力し、保護者の支えもあり、学校の協力も伴ったというすべてが噛み合っただけの結果ではないかと考えている。その中で、本児は困った状況に出会って、それに気付いていても、サインが出せなかったり、サインをうまく受け止めてもらえなかったりした結果、よい解決法を見つけることができず、困った状況に出会うところへ行くことを避けるという行動を見せていた。しかし、このサインを工夫して拾いあげ、解決方法を共に考え取組む中で、困った、嫌な出来事のうち相談することで解決できるものがあるという体験をしていくことが助けになったのではないかと考えている。

# あかりの家イロイロ情報局

## 短期入所事業・日中一時支援事業

行動上の問題や、家庭のご都合などで、一時的に施設をご利用いただけます。昨年度は、自閉症の方を中心に延べ2,830日の利用がありました。



## くるみんマーク取得

次世代育成支援対策推進法の基準に適合する事業所として、「兵庫労働局」より2015年4月15日付で認定されました。

## 障害児等療育支援事業

在宅障害児(者)及び家族を対象とした相談・療育を行う事業です。当事業では専属のスタッフがご相談をお受けします。ご相談をお受けした後に療育担当職員が以下のような支援をいたします。

- I: お宅にお伺いしてご相談をお受けします。 (在宅支援訪問療育等指導事業)
- II: あかりの家に来ていただいて、ご相談をお受けします。 (在宅支援外来療育指導事業)
- III: 通所施設、学校、保健所などにお伺いしてご相談をお受けします。 (施設支援一般指導事業)

## 療育相談

お気軽にお電話ください!!

TEL 079-254-3292  
FAX 079-254-3403  
亀山まで

## 姫路親子体操教室

親御さんが子供さんの身体に働きかけながら、<親と子のいい関係>=主導と受容のバランスある力をつけていくことを応援しています。

## ワークホーム高砂 手づくり納豆

ワークホーム高砂では、手づくり納豆を製造・販売しています。お馴染みのなっとこちゃんに加え、現在新たに小粒なっとこちゃんを開発中。お客様から好評をいただいている手づくり納豆。是非ご賞味ください。



## 自閉症専門図書・VTRの貸出

あかりの家では、自閉症に関する専門図書、ビデオを約400冊保有し、希望する方に貸し出しています。

## あかりの家 さをり班

### ナイスハートバザール

今年もアスパ高砂の協力を得て、オリジナリティ溢れる商品を販売いたします。また、さをり織りの実演、体験もしていただけます。是非とも足を運びください。

日時: 12月9日(土)・10日(日)  
場所: アスパ高砂 セントラルコート

販売・出店 是非お立ち寄りください。

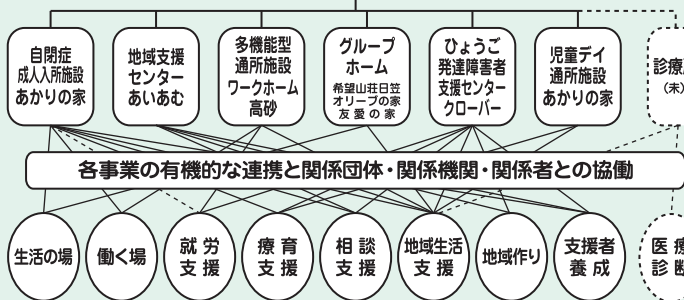
販売所: 高砂駅前観光案内所ちり  
ヘアサロン采(アヤ)  
出店: 東はりま県民局チャレンジショップきずな



## 地域交流ホームの開放

あかりの家では、地域福祉の活性化のために、地域交流ホームを、障害のある方たちの活動や、ボランティアグループの会議などにご利用いただき、施設と地域との交流の場として開放しています。

## 社会福祉法人 あかりの家 自閉症総合援助センター



## 社会福祉法人 あかりの家の利用者状況 (H28年度)

(平成28年4月1日現在)

あかりの家	施設入所	定員40名、現員39名 (男31名、女8名)
	生活介護	定員40名、現員47名 (男38名、女9名)
ワークホーム		定員40名、現員47名 (男36名、女11名)
グループホーム		定員20名、現員16名 (男13名、女3名)

- 出身別利用状況  
高砂市(37) 加古川市(22) 姫路市(14) 播磨町(6) 加東市(1) 神戸市(9) 尼崎市(2) 小野市(2) 県外(3)
- 年齢  
あかりの家 最年長62歳 最年少18歳 平均 施設入所45.1歳 生活介護43.4歳  
ワークホーム 最年長53歳 最年少18歳 平均 就労B型32.9歳 生活介護37.7歳  
グループホーム 最年長68歳 最年少21歳 平均 40.1歳

## 社会福祉法人 あかりの家

障害者支援施設 あかりの家  
自閉症成人施設 あかりの家  
児童デイサービス あかりの家  
地域支援センター あいあむ  
知的障害者通所授産施設 ワークホーム高砂  
グループホーム 希望山荘日笠  
グループホーム オリーブの家  
グループホーム 友愛の家  
ひょうご発達障害者支援センター クローバー

〒671-0122 兵庫県高砂市北浜町北脇504番1 TEL (079)254-3292 FAX (079)254-3403  
URL http://akarinoie.org/  
〒671-0122 高砂市北浜町北脇504番1 TEL (079)254-3292 FAX (079)254-3403  
E-mail akarinoie@nifty.com  
〒671-0122 高砂市北浜町北脇504番1 TEL (079)254-3292 FAX (079)254-3403  
〒671-0122 高砂市北浜町北脇504番1 TEL (079)280-3740 FAX (079)254-3403  
E-mail aiamu@mbr.nifty.com  
〒676-0081 高砂市伊保町中筋1331 TEL (079)449-0701 FAX (079)449-4111  
E-mail workhome@nifty.com  
〒676-0082 高砂市曾根町1704-4 TEL (079)447-3136 FAX (079)447-3136  
〒676-0822 高砂市阿彌陀町魚橋375-16 TEL (079)439-7183 FAX (079)439-7183  
〒676-0082 高砂市曾根町1704-5 TEL (079)440-7817 FAX (079)440-7817  
〒671-0122 高砂市北浜町北脇519 TEL (079)254-3601 FAX (079)254-3403  
URL http://auc-clover.a.la9.jp/ E-mail auc.clover@nifty.com